

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

目次	株主の皆様へ……………	1
	トピックス……………	2
	完成工事ハイライト……………	4
	第2 四半期連結決算のご報告 ……………	5
	経営成績、事業別の営業の成果、損益の状況、財務の状況	
	連結貸借対照表要旨	
	連結損益計算書要旨、(参考) 個別損益計算書要旨	
	連結キャッシュ・フロー計算書要旨	
	会社の概況 ……………	8
	商号、沿革、設立、営業種目	
	資本金、株式の状況	
	大株主の状況、株価の推移	
	取締役および監査役、執行役員	
	事業所	

株主の皆様へ



代表取締役社長
水島 和紀

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申しあげます。

第111期（平成23年4月1日から平成24年3月31日）も第2四半期を終了いたしましたので、連結および単体決算を含め、会社の近況をご報告申しあげます。

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により落ち込んだ輸出や生産に持ち直しの動きが見られたものの、原発事故に伴う電力供給の制約や個人消費の低迷、更には欧米の財政不安を背景とした円高の進行など、先行きに対する不透明感が一層強まりました。

建設業界におきましては、震災復興を目的とした民間設備投資の動きがあったものの、公共投資が総じて低調に推移するなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社および当社連結子会社（以下「当社グループ」という）は、各社が有する技術の優位性を活かした受注活動やアスファルト合材等の製品販売の強化に努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の売上高は1,519億64百万円（前年同期比5.4%増）となりました。利益につきましては、受注競争が激化するなか、コスト削減や業務の効率化による収益力の向上に努めてまいりました結果、営業利益は49億55百万円（前年同期比147.9%増）、経常利益は51億36百万円（同157.6%増）、四半期純利益は27億33百万円となりました。

第3四半期以降の経営環境につきましては、東日本大震災で被害を受けたサプライチェーンの立て直しなどを背景に景気が持ち直していくことが期待されますが、一方で、海外景気の下振れ懸念や為替レート・株価の変動などにより、景気が下押しされるリスクが存在することに留意する必要があります。

建設業界におきましては、公共投資に持ち直しの傾向が見られるものの、民間設備投資に未だ上向きの動きがないなど、引き続き厳しい状況が予想されます。

このような環境にあっても、当社グループは、技術と経営に優れた企業集団としての真価を発揮して、技術力の向上、営業力の強化に努めるとともに、生産性の向上とコスト削減を確実に進め、競争力の強化に取り組んでまいります。そして、舗装工事、土木工事、製品販売の収益基盤の強化を進めるとともに、建築、開発、プラントエンジニアリング、土壌浄化等の分野の収益力向上と安定化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格段のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成23年12月

株式会社 NIPPO

代表取締役社長 水島和紀

パーフェクトクール

遮熱性舗装

NIPPOの論文が世界道路会議で「ベストイノベーション賞」を受賞



今年9月26日～30日にメキシコで開催された「第24回世界道路会議」(PIARC:世界道路協会主催)において、NIPPOの遮熱性舗装「パーフェクトクール」の論文が最高位である「ベストイノベーション賞」を受賞しました。地球温暖化対策やヒートアイランド抑制に貢献する舗装として、2008年の「世界道路功績賞」(国際道路連盟)に引き続き、NIPPOの技術が世界の舞台で認められました。



授賞式の様子

舗装業界初 環境ラベルを環境省に登録

今年8月、環境省が運用する「環境ラベル等データベース」に環境ラベルと対象商品を舗装業界で初めて登録しました。登録した環境ラベルは、ISOで定める「タイプII」に該当し、自社で環境に対する基準を設定し、その基準を満足する製品についてのみ付与するラベルです。

登録した対象商品と自主基準は以下のとおりです。NIPPOの舗装技術を通じて、環境保全活動をさらに推進してまいります。

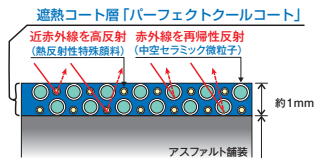


登録した環境ラベル

遮熱性舗装「パーフェクトクール」

自主基準 ヒートアイランドの抑制として、
路面温度の上昇を従来比*)で10℃以上抑制

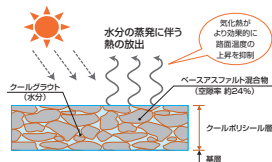
遮熱コート層に含まれる特殊顔料と中空セラミック微粒子が、太陽エネルギーのうち近赤外線を反射することで、路面温度の上昇を抑制。



保水性舗装「クールポリシール」

自主基準 ヒートアイランドの抑制として、
路面温度の上昇を従来比*)で10℃以上抑制

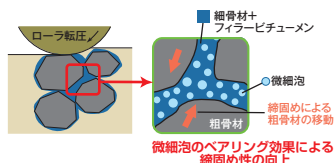
クールグラウトが雨水などを保水し、この水分が蒸発する際の酸化熱で路面温度の上昇を抑制。一般の舗装よりも舗装体内の蓄熱量が低減するため、歩行者空間や沿道の熱環境を改善。



中温化アスファルト混合物「エコファイン」

自主基準 CO₂削減:従来比*)で
100g/m³ (t=5m換算)以上削減

特殊添加剤「フォームセット」により、混合物モルタル中に小さな泡を発生。その泡が骨材間において、ヘアリングのような動きをすることで、混合物の混合性と締固め性が向上。



*)従来比とは、同一の機能を有する、この技術を用いない当社製品と比較した結果をいいます。

アンダーコートパーピラス

遮水型排水性アスファルト舗装

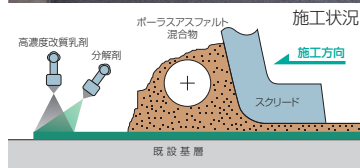
基層を保護して健全な状態を長期間維持。薄層での対応も確認

「アンダーコートパーピラス」は基層を保護するため、高濃度改質乳剤を多量散布し、ポーラスアスファルト混合物層の底部に遮水性を持たせた排水性舗装です。基層への雨水浸透や基層混合物のはく離を防ぐため、健全な状態を長期間維持できます。

今回、新たに薄層の施工においても有効であることが確認され、より経済的な修繕が可能となりました。

特長

- ①遮水性の向上：多量散布した高濃度改質乳剤がポーラスアスファルト混合物層の底部に遮水層を形成し、既設基層を雨水から保護します。
- ②接着性の向上：接着性にすぐれる高濃度改質乳剤により、表層・基層間の付着力を強化します。
- ③経済性：基層まで打換える従来の補修工法に比べ、排水性舗装の修繕工事が経済的に行えます。



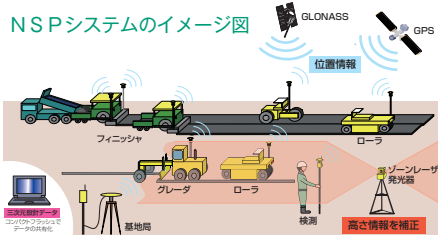
NSPシステム・TSシステム

情報化施工

ITによる施工システムで作業の合理化、高精度な仕上がりを実現

ITを駆使して施工機械を自動制御し、作業を合理的に、かつ高精度な仕上がりを行う「情報化施工」に注力しています。「NSPシステム」は、GPSとゾーンレーザ技術を利用して施工機械を一元管理する大規模工事向けで、「TSシステム」は、自動追尾トータルステーションを用いて施工の敷きならし高さを制御する中小規模工事向けのシステムです。

平成25年度より国の情報化施工技術推進の方針として、実用化の優先順位の高い「TSによる出来形管理技術」と「マシンコントロール（モータグレーダ）技術」が一般化されることになり、NIPPOの施工技術力にさらに注目が集まっています。



当社エネルギー事業をJXグループのエンジニアリング会社へ事業移管

2012年4月1日付で、当社のプラントエンジニアリング部門であるエネルギー事業本部の事業を会社分割し、JXグループのエンジニアリング会社（統合会社）に同事業を移管するとともに、当社は統合会社の株式の一部を取得いたします。

当社は統合会社の株主として、同社の効率的な経営体制構築と競争力強化による企業価値の向上に努めるとともに、同社との密接な連携関係を通じて、当社の舗装土木工事、建築工事、土壌浄化等の受注拡大を図ってまいります。

完成工事ハイライト

東日本大震災 直後



<常磐自動車道>

復旧完了（震災の6日後）



● 東日本高速道路株式会社関東支社 水戸管内災害応急復旧工事
【茨城県】

● 阪神高速道路株式会社
舗装補修工事
(平成 22 年度)
【大阪府】



● 株式会社新日鉄都市開発
(仮称) リビオ北 26 条マンション新築工事
【北海道】

